

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	なごみ保育園	施設種別	(旧体系 :)
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成 27年11月16日

総 評	<p>「しっかりと“こころ”の中に蓄え」を持つ子どもたちへという願いのもと、社会福祉法人奈良福祉会なごみ保育園は、木津川市の東部の新興住宅地域に開設されました。</p> <p>採光と風通しの良い園舎は、菜園スペースが設けられるなど、自然や木のぬくもりの感じられる明るいデザインです。保育では「自分で気づき、考え、やってみる」というねらいに沿って、「自由選択遊び」に相応しい環境が整備されるとともに、「設定保育」についても自発・協調・社会性を培う多彩な保育が実践されています。それは、綿密に作成された保育の計画やアクトブック（保育マニュアル）に記載され、子どもたち一人ひとりの育ちが保障されるよう、保育実践につながられています。</p> <p>近隣の環境を活かした農業体験も行われ、多様な行事も魅力です。地域のニーズに応えるため一時保育も実施しています。開園から5年、卒園児が小学生になり、いよいよ「たくましく生きていく将来の子どもたちにとって、保育園が心の宝、原風景でありたい」と、書かれたなごみ保育園の案内文面通りに発展することが一層期待されます。</p>
特に良かった点 (※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の小学校と共に始まった「きずなプロジェクト（挨拶運動）」や農業体験の機会を設けるなど地域との関係が適切に確保されています。Ⅱ-3-(1)-① ・ 園長、主任を中心に保育士を含め自己評価の評価委員会を設置し、評価チェックシートを基に見直すなど、改善に向けて取り組みがされました。Ⅲ-2-(1)-② ・ 給食試食会は、過去の開催企画を見直し、保育参観日に実施計画をされています。常に保護者への情報発信を心掛けた取り組みがあります。Ⅳ-1-(1)-⑤ ・ 事故防止チェックリストが整備され、遊具点検等も定期的（月1回）に行われています。大きな事故やケガの予防のためヒヤリハット記録も整備されていました。Ⅳ-3-(1)-③
特に改善が 望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修個別計画を策定し、知識や技量・目的に応じた研修を実施されると良いでしょう。Ⅱ-2-(3)-② ・ 保護者向けに生活アンケート、健康状況アンケートを実施し、全ての子どもたちの状況を把握して、健康指導、生活習慣の指導などに活かしています。利用者からの意見箱「なごみの耳」も設置し、保護者の意見や要望、苦情について解決する対応体制が整っています。今後は苦情解決のための仕組みを表示し、公表の方法や内容を具体的に記載した対応マニュアルの定期的な見直しをされると良いでしょう。Ⅲ-1-(2)-②

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

【保育所版】 評価結果対比シート

受診施設名	なごみ保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	平成27年11月16日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-2 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	B	B
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	B	B
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	
	I-2-2 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	B
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	B
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	B

[自由記述欄]

- ・ 保育の理念、保育方針、保育目標が明文化されています。利用者に一層の周知と理解を促すため取り組みをされるとなお良いでしょう。
- ・ アクトブック（園独自のマニュアル集）を作成し、情報を一元化しています。
- ・ 保育課程や指導計画が細やかに作成され、園長、主任、業務の担当者が見直しを行えるようにしています。
- ・ 管理者は質の向上に意欲を持ち取り組んでいます。指示系統が明確で数ある会議体の位置付けがそれぞれ明文化されており、効率的な運営がなされています。
- ・ 保育の可視化、保育内容の紹介に写真を用いて解説したドキュメンテーション掲示にも取り組んでいます。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
		II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B
	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	B	
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	A
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		A	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	B
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	A
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A

【自由記述欄】

- ・人材管理の体制が整備されています。新人研修は、人材育成プラン「キャリアアップの道のり」として明文化され、確立しています。
- ・職員の就業状況に関しても配慮がなされ、職員に対して面談を年に2回実施し、職員の意向を把握しています。
- ・研修成果に関する、評価分析を行っています。評価・分析された結果を次の研修計画に反映しています。
- ・職員は積極的に研修へ参加し、研修報告も職員会議で報告されています。職員一人ひとりについて、基本姿勢に沿った教育・研修個別計画を策定し、知識や技量・目的に応じた研修を実施されると良いでしょう。
- ・ボランティア受け入れマニュアルが整えられ、園の基本姿勢が明確にされています。
- ・近隣の小学校と共に始まった「きずなプロジェクト（挨拶運動）」や農業体験の機会を設けるなど地域との関係が適切に確保されています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	B
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	B	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A

【自由記述欄】

・園長、主任を中心に保育士を含め自己評価の評価委員会を設置し、評価チェックシートを基に見直すなど、改善に向けて取り組みがされました。

・定められた基準のものだけでなく、園独自の自己評価を実施しています。結果をアクトブックに反映させ、記載内容を充実させるなど質の向上に努めています。アクトブックが活きたマニュアルであり、ひとり一人の保育士のガイドブックとなり、活用され、保育の質の総合的向上に繋がっています。

・保護者向けに生活アンケート、健康状況アンケートを実施し、全ての子ども状況を把握して、健康指導、生活習慣の指導などに活かしています。利用者からの意見箱「なごみの耳」も設置し、保護者の意見や要望、苦情について解決する対応体制が整っています。今後は、苦情解決の仕組みを掲示すると共に対応マニュアルの定期的な見直しをされると良いでしょう。

・転園先や就学先に対しての引き継ぎ文書は、五領域を踏まえて、その子どもの育ち、園での様子が詳しく記載されています。

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	B	B
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	B	B
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	B
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	A

【自由記述欄】

・全園児に「けんこうてちょう」があり、内科、歯科健診結果や日々の健康状態について記載され、保護者との情報伝達に活用されています。感染症発症罹患状態は、玄関掲示板に毎日情報掲示されています。

・給食業務は、専門業者に委託しています。栄養士の異動（変更）があっても、園内の給食担当者と連絡を密にとり、食育だよりの発行や献立の工夫が進められています。給食室は全面ガラス張り、常に園児が調理の様子を見ることができます。

・子どもたちは明るく落ち着いた雰囲気の中で月齢差や子どもの発達や実態を踏まえた動線、環境の中で、のびのびと活動しており、保育士が子どもの活動を見守っています。乳児室保育室には、牛乳パックを利用した手作り玩具等が使用されています。

・早朝、延長保育は、たまごホール（大ホール）や一部の保育室を活用し、実施しています。玩具の種類は、早朝、延長保育を利用するの子どもたちの興味関心に応じて保育士間の認識を共有することで良い保育環境が作られています。

・配慮が必要な子どもや障害児に対しては、アセスメントが行われ、一人ひとりに相応しい保育が計画、実践されています。



評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	B	A

[自由記述欄]

- ・幼児はクラス懇談会・保育参観を年2回開催しています。園だよりや他の配布物、ホームページの行事報告等で保育内容の情報発信をしています。
- ・全クラス保育室廊下には、保育の主だった活動写真がコメント付きで掲示しており、保育内容の可視化に努めています。
- ・虐待に関する研修会に積極的に参加し園全体で学びを深めています。虐待の予防を含めて保育士職員で共通認識を持つよう、会議で報告がされています。
- ・発達記録は個々に整備し、関係機関とも連携をとっています。各記録にバラツキが生じないように、成長、発達の目安を定め、書式の改善も昨年度行われました。
- ・小学校との交流活動を定期的に実施しています。学校探検活動等を通して、園児の小学校への接続の機会を設けています。
- ・一時保育は、保護者のニーズに応え随時実施されています。子どもの様子に合わせ同年齢の保育室で保育をしたり、不安定や不慣れな場合は、専用保育室で保育士がゆったりと関わりながら実施しています。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B

[自由記述欄]

- ・給食業務は、専門業者に委託しています。園においても衛生管理、食中毒マニュアルが整備され適切に運営されています。
- ・事故防止チェックリストが整備され、遊具点検等も定期的（月1回）に行われています。大きな事故やケガの予防のためヒヤリハット記録も整備されていました。
- ・不審者侵入時の合図言葉を管理職で決め、緊急時に備えていますが、マニュアルに基づく全職員に対する研修、訓練等が行われていません。日頃から、全職員へのマニュアル周知や、そのための研修等の実施されるとなおいでしょう。